



—東北生産性本部—

労使定例政策研究会第2回例会開催

今年度の労使定例政策研究会は、現代社会の課題である『社会の変化にどう向き合うか』を大テーマとして、「人口減少社会、ユビキタス社会、格差社会、歴史から学ぶ」の4回シリーズで開催をすることとし、去る10月3日（水）に第2回例会を開催いたしました。



■第2回例会(10月3日開催)48名参加

☆テーマ —ユビキタス社会—

「様々なサービス提供が豊かさを伴うのか、その光と陰」

☆講師 サイバー大学 IT総合学部

教授 前川 徹 氏

宮城県仙台市青葉区本町二丁目六番十二号 <http://www.t-productivity-ce.jp> HP 掲載中

第2回例会は、1990年代半ばにインターネットと米国情報産業に関する貴重な情報源として、IT業界の関係者が重宝していた「前川レポート」で有名な前川教授を招いての研究会を開催いたしました。



現代の高度情報化社会は、いつでもどこでも必要な情報を手に入れられ、誰でも世界に向かって情報発信ができるユビキタスな社会とも言い換えることも出来ます。

一方、インターネットには「影」を落とす一面もあります。個人情報の流出・著作権や肖像権の侵害・有害情報の提供・コンピュータウイルスの感染などがあります。ITにより各企業はコスト削減・合理化・業務効率化・顧客サービスの向上等を実現してきましたが、陰の部分として、ここ数年は特定企業や業種を対象に情報を盗もうとする標的型と呼ぶ攻撃が増加しているとのことです。また、情報漏洩の原因としては意外にも管理ミス、次いで誤操作、紛失置き忘れとのことでした。

最後にご参加いただきました各企業の労使の皆さまと講師の前川先生に感謝を申し上げますとともに、次回以降の研究会へのご参加を宜しくお願い致します。

内 容：大テーマ 社会の変化にどう向き合うか

第3回例会～第4回例会、14時半～16時 ハーネル仙台

例会	日時	小テーマ	演題・講師
第3回	翌2月6日	格差社会	「労働形態の多様化は何をもたらしたか」 国際労働財団常務理事 團野久茂 氏
第4回	翌3月6日	歴史から学ぶ	「社会の変化にどう向き合うか」 富士社会教育センター理事長 大松明則 氏

第一義 ～あまねく存在するとは～

小職は至ってIT関係には疎く、携帯電話は5年前のものを大切に使用している人間ですが、今回の前川先生の講演の中で、IT化の陰の部分として、実在関係者を詐称したメールによる攻撃やオンラインバンキングを狙ったフィッシングなどの具体例も教えていただきました。自分には情報漏洩や不正アクセスなどは関係無いと思っておりましたが、現代社会は正に「神はあまねく存在する」ユビキタス社会で生きていると実感した次第であります。大切なデータはデータそのものを暗号化するなどの対策が必要とのお話もありました。日々の中で管理ミスや誤操作をしないようにと自分に言い聞かせながら仕事をしていきたいと決意をした一日でした。(記S・Y)